

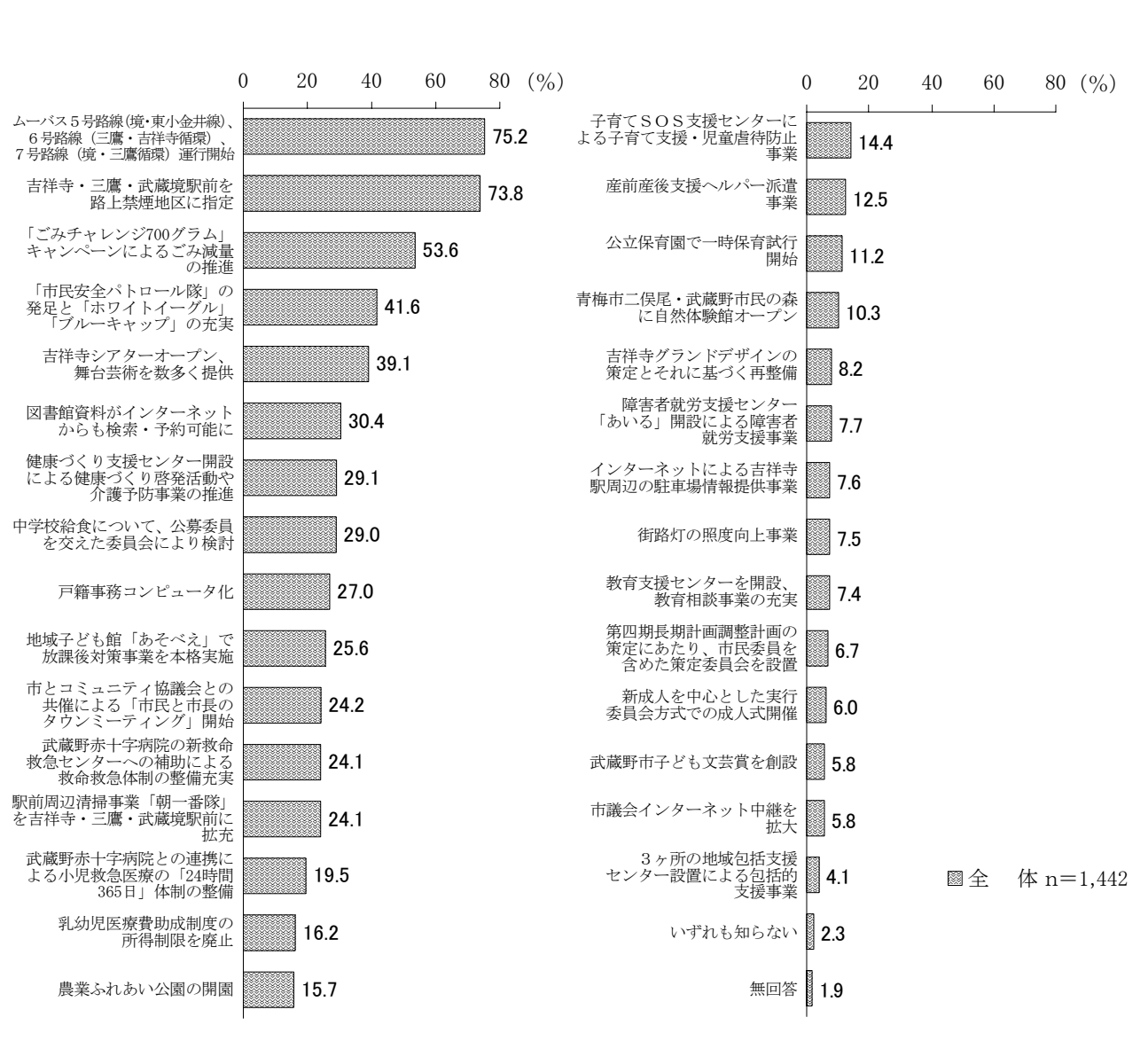
2 市政に関する情報提供などについて

2-1 市の事業の認知度

- ◎ 「ムーバス5号路線（境・東小金井線）、6号路線（三鷹・吉祥寺循環）、7号路線（境・三鷹循環）運行開始」、「吉祥寺・三鷹・武蔵境駅前を路上禁煙地区に指定」が上位2項目となっている

問6 あなたは、武蔵野市が最近行っている次の事業を知っていますか。（○はいくつでも）

図表2-1 市の事業の認知度（複数回答）



市の事業30項目の認知度としては、「ムーバス5号路線（境・東小金井線）、6号路線（三鷹・吉祥寺循環）、7号路線（境・三鷹循環）運行開始」（75.2%）が7割台半ば、「吉祥寺・三鷹・武蔵境駅前を路上禁煙地区に指定」（73.8%）が7割台半ば近くとなっている。次いで、「『ごみチャレンジ700グラム』キャンペーンによるごみ減量の推進」（53.6%）が5割台半ば近くとなっている。「『市民安全パトロール隊』の発足と『ホワイトイーグル』『ブルーキャップ』の充実」（41.6%）が4割強、「吉祥寺シアターオープン、舞台芸術を数多く提供」（39.1%）が4割弱で続いている。（図表2-1）

図表 2-2 市の事業の認知度 (性別・年代別) 上位11項目

		調査数 (n)	「ムーバス5号路線(境・東小金井線)、6号路線(三鷹・吉祥寺循環)、7号路線(境・三鷹循環)運行開始」	「吉祥寺・三鷹・武蔵境駅前を路上禁煙地区に指定」	「『ごみチャレンジ700グラム』キャンペーンによるごみ減量推進」	「『市民安全パトロール隊』の発足と『ホワイトイーグル』『ブルーキャップ』の充実」	「吉祥寺シアターオープン、舞台芸術を数多く提供」	「図書館資料がインターネットからも検索・予約可能に」	「健康づくり支援センター開設による健康づくり啓発活動や介護予防事業の推進」	「中学校給食について、公募委員を交えた委員会により検討」	「戸籍事務コンピュータ化」	「地域子ども館『あそべえ』で放課後対策事業を本格実施」	「市とコミュニティ協議会との共催による『市民と市長のタウンミーティング』開始」
全 体		1,442	75.2	73.8	53.6	41.6	39.1	30.4	29.1	29.0	27.0	25.6	24.2
性別	男性	577	75.0	75.0	43.5	33.4	32.8	26.7	22.5	20.6	23.6	17.9	18.5
	女性	846	76.0	73.5	60.8	47.6	44.0	33.6	33.8	35.0	29.7	31.1	28.0
年代別	20歳～29歳	148	63.5	77.0	53.4	21.6	35.1	31.8	12.8	14.9	10.1	9.5	7.4
	30歳～39歳	269	75.5	77.0	62.1	36.4	32.7	39.0	15.6	31.6	20.1	34.6	19.0
	40歳～49歳	228	75.4	76.8	55.3	50.4	46.5	36.0	23.2	39.9	20.6	43.0	19.3
	50歳～59歳	232	80.2	71.6	53.4	38.8	39.2	28.4	33.6	32.8	27.6	25.0	27.6
	60歳～69歳	271	77.9	73.4	52.8	50.2	42.1	28.0	42.8	29.2	39.5	20.3	29.5
	70歳～79歳	187	78.6	76.5	51.9	46.5	43.3	26.7	41.2	23.5	36.4	18.2	37.4
	80歳以上	99	68.7	56.6	34.3	39.4	29.3	13.1	33.3	20.2	34.3	16.2	26.3

市の事業30項目について、認知度の高い11項目を各属性別に分析した。

性別で見ると、「吉祥寺・三鷹・武蔵境駅前を路上禁煙地区に指定」を除いたすべての項目で男性よりも女性の方が多く、特に「『ごみチャレンジ700グラム』キャンペーンによるごみ減量推進」、「『市民安全パトロール隊』の発足と『ホワイトイーグル』『ブルーキャップ』の充実」、「吉祥寺シアターオープン、舞台芸術を数多く提供」、「健康づくり支援センター開設による健康づくり啓発活動や介護予防事業の推進」、「中学校給食について、公募委員を交えた委員会により検討」、「地域子ども館『あそべえ』で放課後対策事業を本格実施」で10ポイント以上の差となっている。

年代別で見ると、「ムーバス5号路線(境・東小金井線)、6号路線(三鷹・吉祥寺循環)、7号路線(境・三鷹循環)運行開始」は50歳～59歳で約8割、「『ごみチャレンジ700グラム』キャンペーンによるごみ減量推進」は30歳～39歳で6割強と最も多くなっている。「地域子ども館『あそべえ』で放課後対策事業を本格実施」は40歳～49歳で4割台半ば近く、「市とコミュニティ協議会との共催による『市民と市長のタウンミーティング』開始」は70歳～79歳で3割台半ばを超えている。(図表2-2)

図表 2-3 市の事業の認知度
(一番下のお子さんの状況別・介護が必要な同居家族の有無別) 上位11項目

		調査数 (n)	7号路線(境・三鷹循環)運行開始 ムーバス5号路線(境・東小金井線)、6号路線(三鷹・吉祥寺循環)	吉祥寺・三鷹・武蔵境駅前を路上禁煙地区に指定	「ごみチャレンジ700グラム」キャンペーンによるごみ減量推進	「市民安全パトロール隊」の発足と「ホワイトイーグル」「ブルーキャップ」の充実	吉祥寺シアターオープン、舞台芸術を数多く提供	図書館資料がインターネットからも検索・予約可能に	健康づくり支援センター開設による健康づくり啓発活動や介護予防事業の推進	健康づくり支援センター開設による健康づくり啓発活動や介護予防事業の推進	中学校給食について、公募委員を交えた委員会により検討	戸籍事務コンピュータ化	地域子ども館「あそべえ」で放課後対策事業を本格実施	市とコミュニティ協議会との共催による「市民と市長のタウンミーティング」開始
全 体		1,442	75.2	73.8	53.6	41.6	39.1	30.4	29.1	29.0	27.0	25.6	24.2	
一番下のお子さんの状況別	小学校入学前	146	76.0	71.9	66.4	44.5	28.1	45.9	16.4	47.9	19.9	52.7	21.9	
	小学生 または中学生	124	82.3	77.4	54.0	66.1	45.2	43.5	23.4	58.1	21.8	75.8	21.8	
	高校生 または大学生	109	75.2	80.7	55.0	52.3	47.7	35.8	24.8	36.7	22.0	34.9	30.3	
	学校卒業・就職・ 結婚など	256	82.0	75.8	49.6	45.7	41.0	25.0	36.3	29.3	31.6	19.5	25.0	
介護が必要な同居家族の有無別	いる	195	79.0	74.4	52.8	45.1	39.0	24.6	41.5	29.2	29.2	27.2	28.2	
	いない	859	76.8	76.0	53.7	46.3	41.4	33.2	28.4	32.7	28.4	30.0	25.4	

一番下のお子さんの状況別で見ると、「吉祥寺・三鷹・武蔵境駅前を路上禁煙地区に指定」では、高校生または大学生で約8割、「『ごみチャレンジ700グラム』キャンペーンによるごみ減量推進」では、小学校入学前で6割台半ばを超えて多くなっている。「『市民安全パトロール隊』の発足と『ホワイトイーグル』『ブルーキャップ』の充実」、「中学校給食について、公募委員を交えた委員会により検討」、「地域子ども館『あそべえ』で放課後対策事業を本格実施」では、いずれも小学生または中学生で最も多く、特に「地域子ども館『あそべえ』で放課後対策事業を本格実施」では7割台半ばである。

介護が必要な同居家族の有無別で見ると、いると回答した家庭は「ムーバス5号路線(境・東小金井線)、6号路線(三鷹・吉祥寺循環)、7号路線(境・三鷹循環)運行開始」では8割弱、「健康づくり支援センター開設による健康づくり啓発活動や介護予防事業の推進」では4割強となっている。(図表2-3)

このように、家庭の状況により、関心を持つ内容が異なり、市の事業の認知度の違いに結びついていると考えられる。

図表 2-4 市の事業の認知度

(居住地域別・市報からの市政情報入手別・インターネットの利用状況別) 上位11項目

		調査数 (n)	7号路線 (境・三鷹循環) 運行開始	ムーバス5号路線 (境・東小金井線)、6号路線 (三鷹・吉祥寺循環)	煙地区に指定	吉祥寺・三鷹・武蔵境駅前を路上禁	「ごみチャレンジ700グラム」キャンペーンによるごみ減量推進	「市民安全パトロール隊」の発足と「ホワイトイーグル」「ブルーキャップ」の充実	芸術を数多く提供	吉祥寺シアターオープン、舞台	図書館資料がインターネットからも検索・予約可能に	健康づくり支援センター開設による健康づくり啓発活動や介護予防事業の推進	健康づくり支援センター開設による健康づくり啓発活動や介護予防事業の推進	中学校給食について、公募委員を交えた委員会により検討	戸籍事務コンピュータ化	地域子ども館「あそべえ」で放課後対策事業を本格実施	市とコミュニティ協議会との共催による「市民と市長のタウンミーティング」開始
全 体		1,442	75.2	73.8	53.6	41.6	39.1	30.4	29.1	29.0	27.0	25.6	24.2				
居住地域別	吉祥寺地域	593	68.8	72.3	53.3	44.0	51.8	30.7	30.4	26.1	25.8	25.3	23.1				
	中央地域	373	78.3	72.9	54.4	41.6	32.4	34.6	29.0	29.2	25.2	23.3	24.1				
	武蔵境地域	451	81.6	76.3	53.4	39.0	28.8	27.5	28.2	32.6	30.6	28.4	26.2				
市報からの市政情報入手別	市報から得ている	1,248	78.0	75.2	56.5	46.0	41.7	32.6	32.7	32.7	29.7	28.4	27.5				
	市報から得ていない	183	57.9	67.8	35.5	13.1	23.5	17.5	6.6	5.5	9.3	7.1	3.3				
インターネットの利用状況別	利用している	891	74.4	76.2	56.5	38.7	39.6	37.3	24.7	29.6	24.9	26.8	22.1				
	利用していない	538	77.3	70.6	49.8	46.8	38.7	19.7	36.8	28.6	31.0	24.0	28.1				

居住地域別で見ると、「ムーバス5号路線 (境・東小金井線)、6号路線 (三鷹・吉祥寺循環)、7号路線 (境・三鷹循環) 運行開始」では、武蔵境地域で8割強、中央地域で8割近くとなっている。「吉祥寺シアターオープン、舞台芸術を数多く提供」では、吉祥寺地域で5割強と最も多い。

市報からの市政情報入手別で見ると、すべての項目で市報から得ていない人よりも得ている人の方が多く、「『市民安全パトロール隊』の発足と『ホワイトイーグル』『ブルーキャップ』の充実」では32.9ポイント、「『ごみチャレンジ700グラム』キャンペーンによるごみ減量推進」では21.0ポイント、「ムーバス5号路線 (境・東小金井線)、6号路線 (三鷹・吉祥寺循環)、7号路線 (境・三鷹循環) 運行開始」では20.1ポイントの差となっている。市の事業の認知状況は市報の活用状況により大きく異なることが分かる。

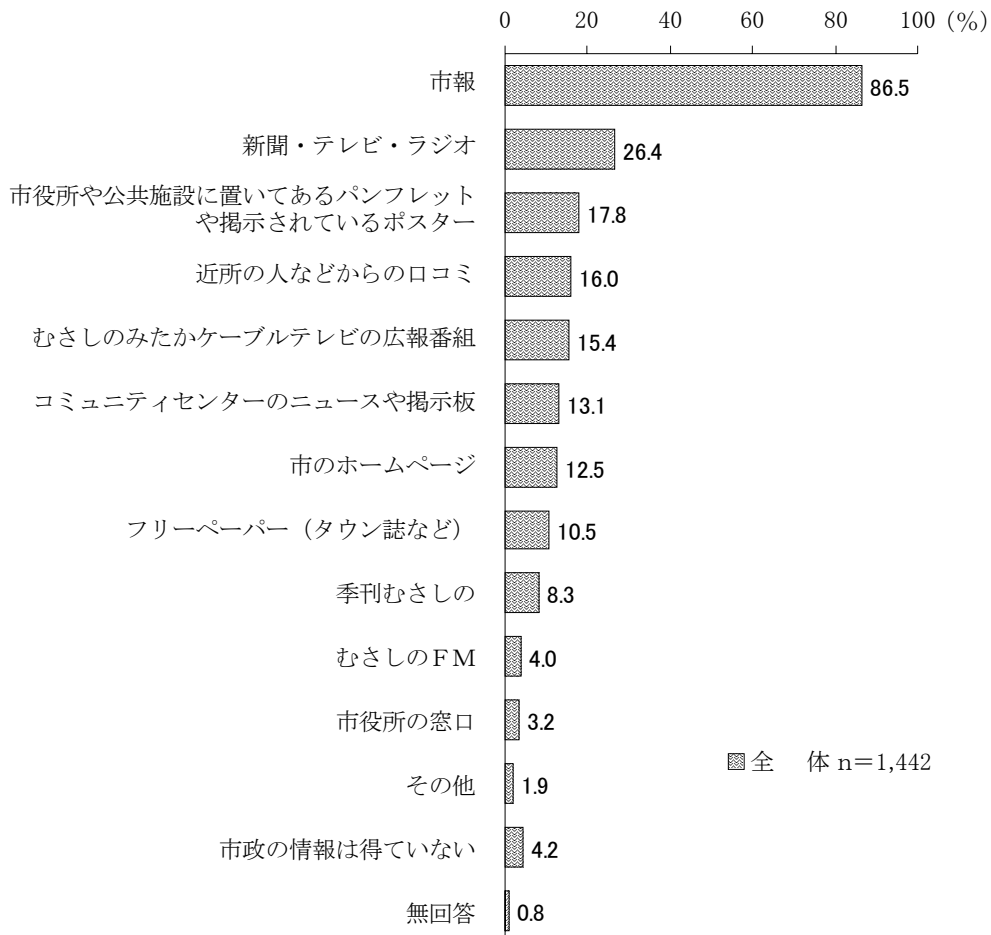
インターネットの利用状況別で見ると、「図書館資料がインターネットからも検索・予約可能に」では、利用している人が3割台半ばを超えている。「健康づくり支援センター開設による健康づくり啓発活動や介護予防事業の推進」では、利用していない人が3割台半ばを超えている。(図表 2-4)

2-2 市政の情報の入手手段

◎ 「市報」が8割台半ばを超えて最も多い

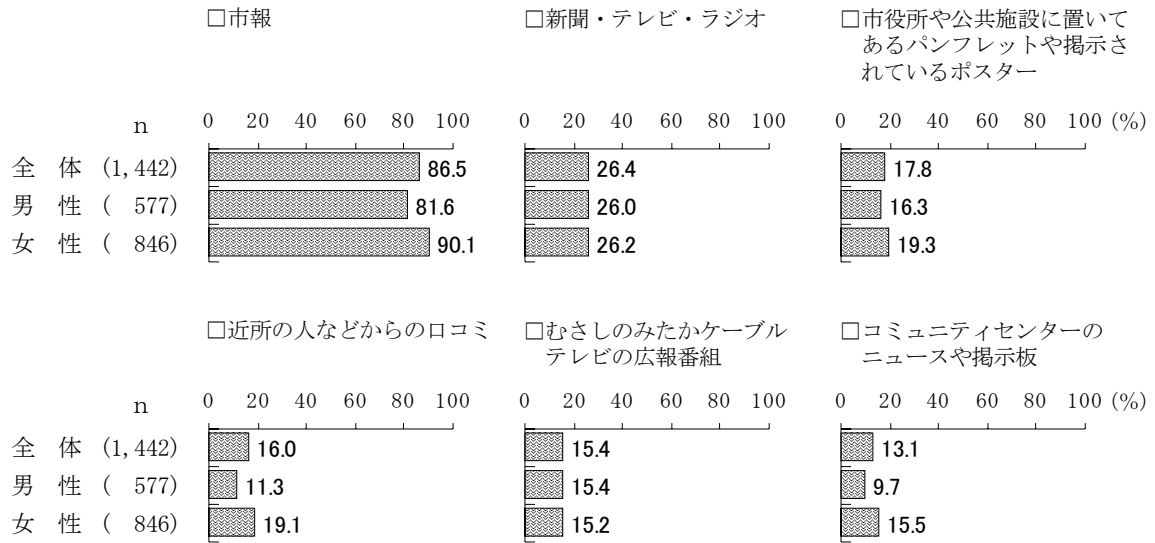
問7 あなたは、武蔵野市政の情報を何から得ていますか。(〇はいくつでも)

図表2-5 市政の情報の入手手段(複数回答)



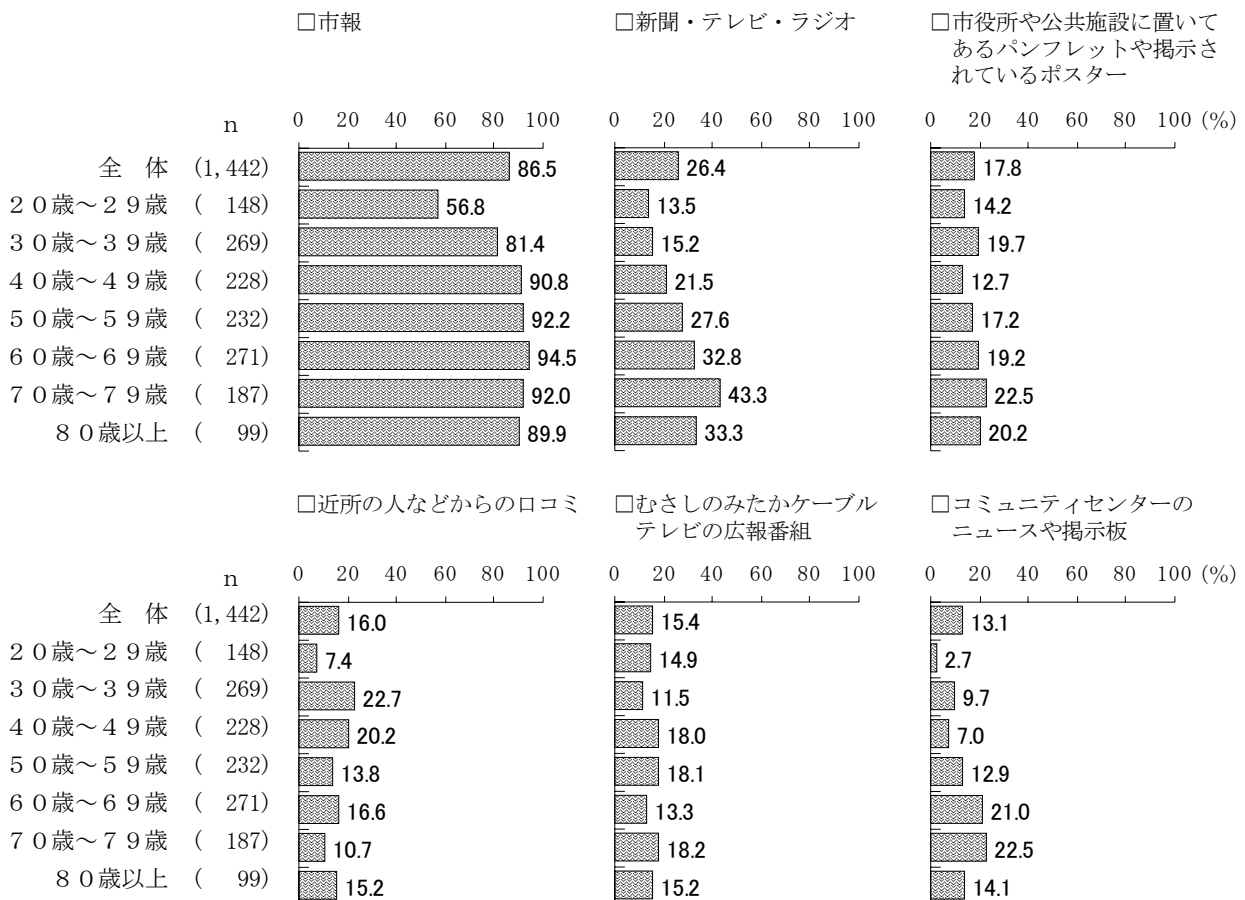
市政情報の入手手段としては、「市報」(86.5%)が8割台半ばを超えて最も多くなっている。そのほかは多くはないが、次に、「新聞・テレビ・ラジオ」(26.4%)が2割台半ばを超え、「市役所や公共施設に置いてあるパンフレットや掲示されているポスター」(17.8%)、「近所の人などからの口コミ」(16.0%)が1割台半ばを超えて続く。市報は、市政の情報の入手手段として大多数の人に活用されていることが分かる。(図表2-5)

図表 2-6 市政の情報の入手手段 (性別) 上位 6 項目



上位 6 項目について、性別で見ると、上位 4 項目では女性の方が男性よりも多くなっており、「市報」では 8.5 ポイント、「近所の人などからの口コミ」では 7.8 ポイントの差となっている。(図表 2-6)

図表 2-7 市政の情報の入手手段 (年代別) 上位 6 項目



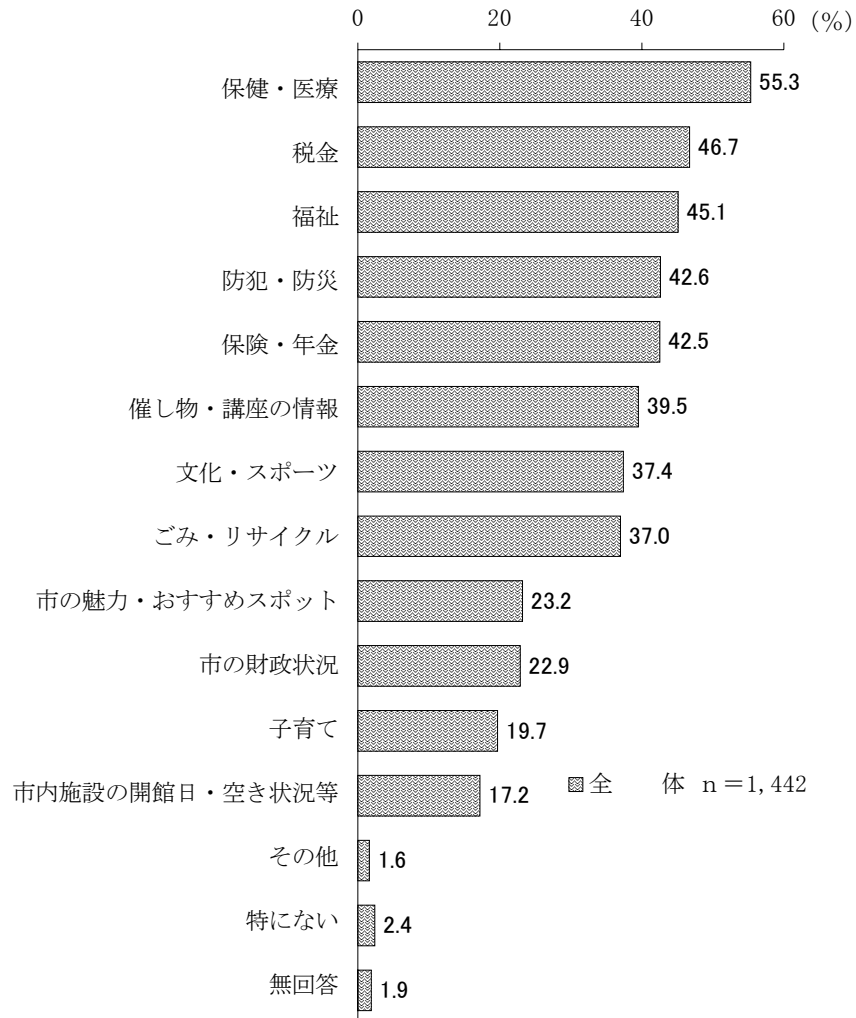
年代別で見ると、「市報」では、60歳～69歳で9割台半ば近くと最も高く、40歳～79歳の各年代で9割を超えており、ほぼすべての人が活用していると考えられる。「新聞・テレビ・ラジオ」では、70歳～79歳で4割台半ば近い。(図表 2-7)

2-3 知りたい行政情報

◎ 「保健・医療」が5割台半ばで最も多い

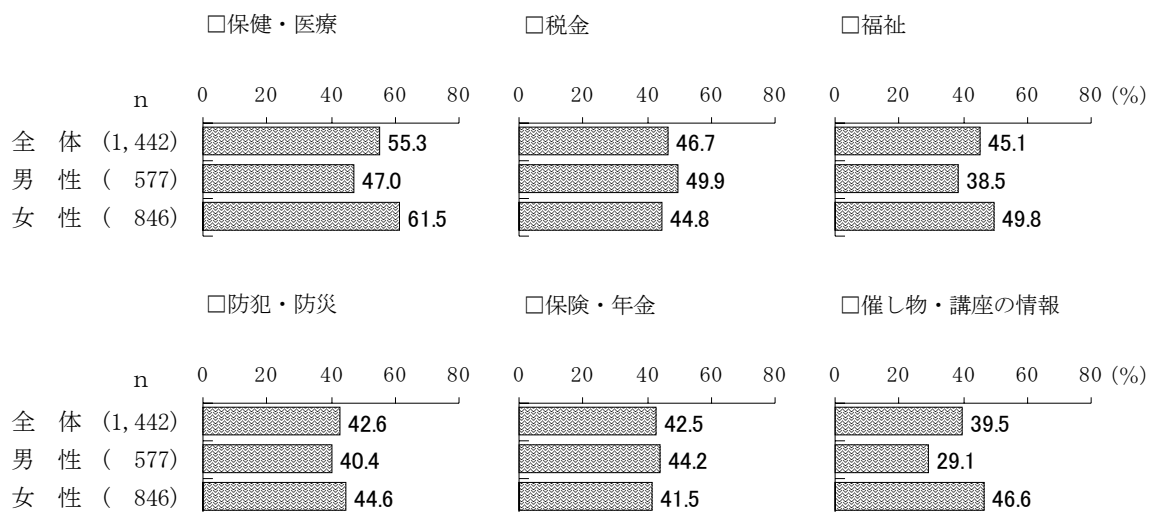
問8 あなたは、市政に関するどのような情報を知りたいと思いますか（○はいくつでも）

図表2-8 知りたい行政情報（複数回答）



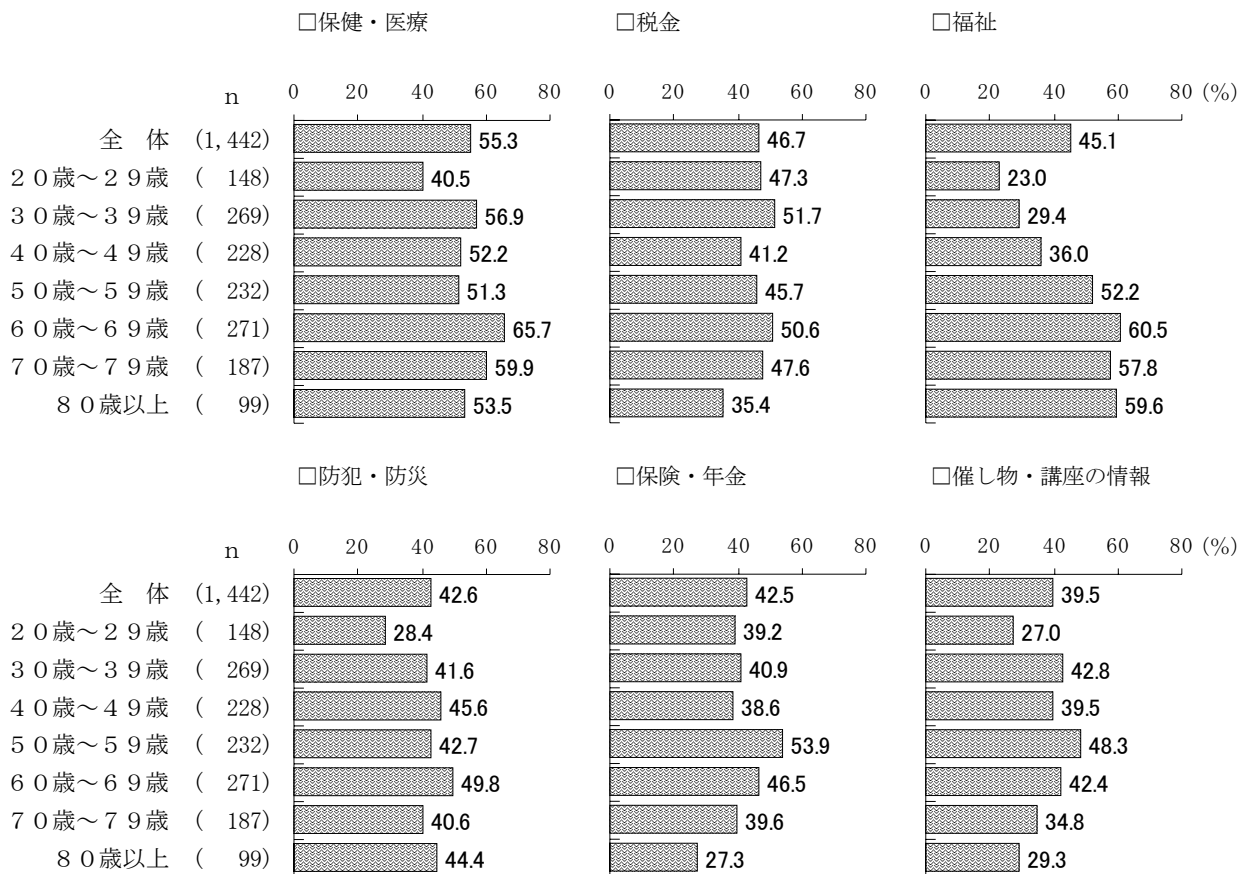
知りたい行政情報としては、「保健・医療」（55.3%）が5割台半ばで最も多くなっている。次いで、「税金」（46.7%）が4割台半ばを超え、「福祉」（45.1%）が4割台半ばである。「防犯・防災」（42.6%）、「保険・年金」（42.5%）が4割強で続く。（図表2-8）

図表 2-9 知りたい行政情報 (性別) 上位 6 項目



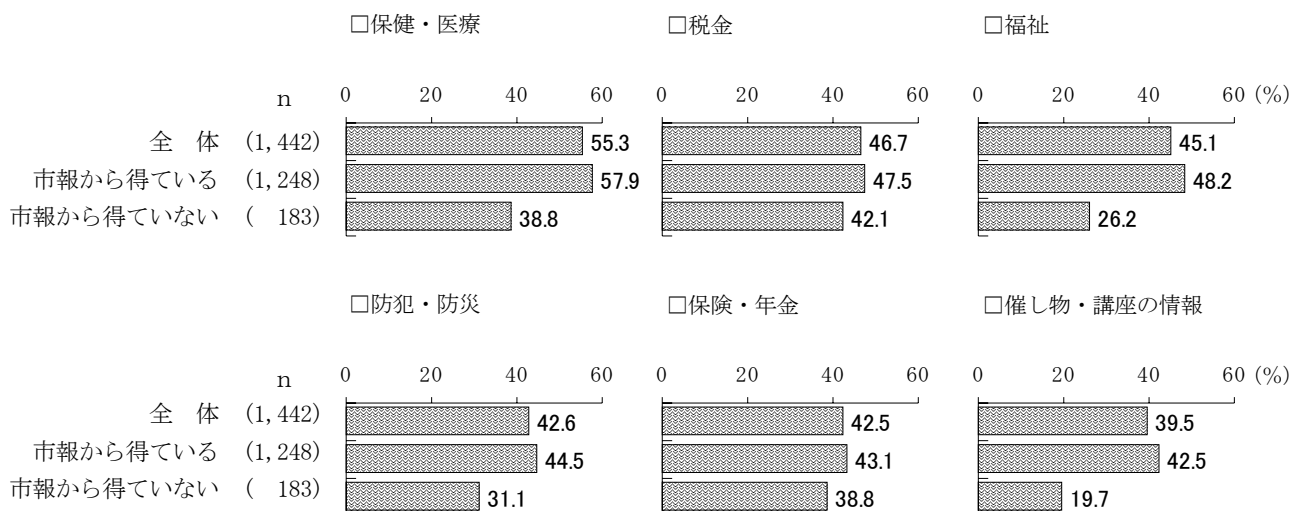
上位 6 項目について、性別で見ると、「保健・医療」では、女性の方が男性よりも14.5ポイント多くなっている。また、「福祉」では11.3ポイント、「催し物・講座の情報」では17.5ポイント女性が男性を上回っている。逆に、「税金」では、男性の方が女性よりも5.1ポイント多くなっている。(図表 2-9)

図表 2-10 知りたい行政情報 (年代別) 上位 6 項目



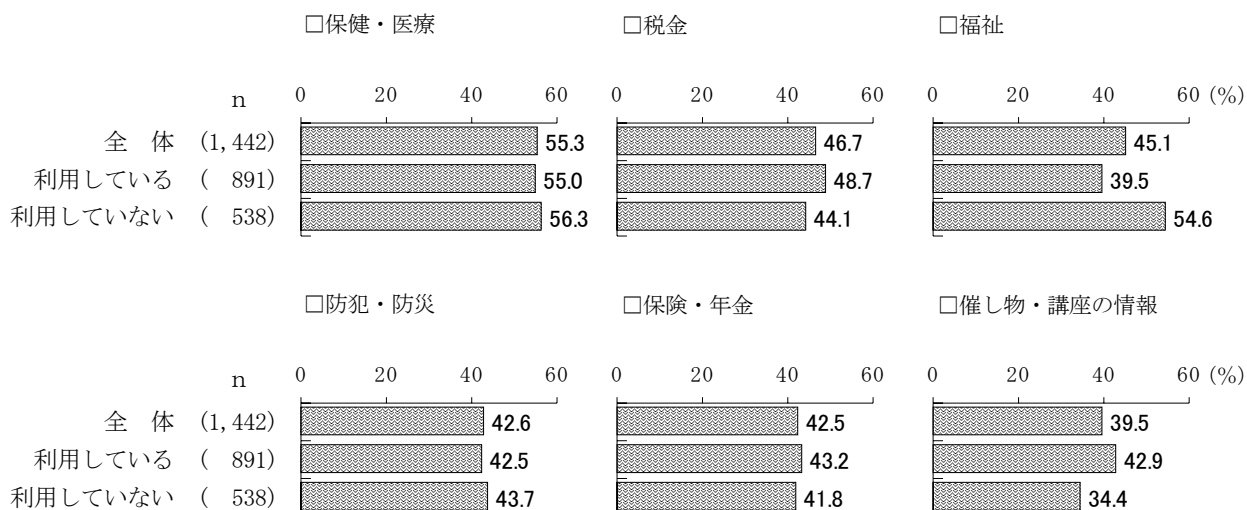
年代別で見ると、「保健・医療」では、60歳～69歳で6割台半ば、次いで70歳～79歳では6割弱となっている。「福祉」では、20歳～29歳で2割台半ば近くだが、年代が上がるほど増加して50歳以上で5割を超えている。「保険・年金」では、50歳～59歳で5割台半ば近くとなっている。(図表2-10)

図表2-11 知りたい行政情報 (市報からの市政情報入手別) 上位6項目



市報からの市政情報入手別で見ると、すべての項目で市報から得ていない人よりも得ている人の方が多く、「保健・医療」では19.1ポイント、「福祉」では22.0ポイント、「催し物・講座の情報」では22.8ポイントの差となっている。市の事業の認知度(問6)が市報から市政情報を得ている人のほうが高いと出ていることから、市報を活用している人は市政情報に触れる機会が多く、また、情報収集意欲も高いといえることができる。(図表2-11)

図表2-12 知りたい行政情報 (インターネットの利用状況別) 上位6項目



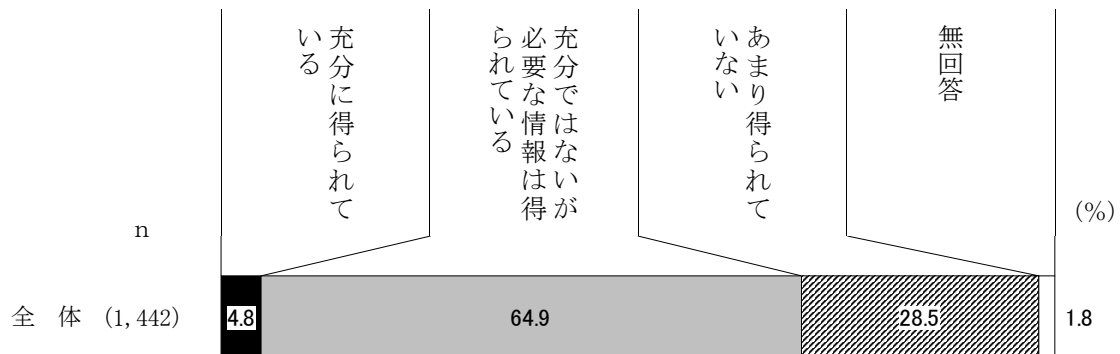
インターネットの利用状況別で見ると、「福祉」では、利用していない人が5割台半ば近くとなっている。「催し物・講座の情報」では、利用している人が4割強である。インターネットを介した情報提供は、このように利用者の情報収集媒体にも考慮する必要があると考えられる。(図表2-12)

2-4 市の情報の入手状況

- ◎ 「充分ではないが必要な情報は得られている」が6割台半ば近く、「あまり得られていない」が3割近く

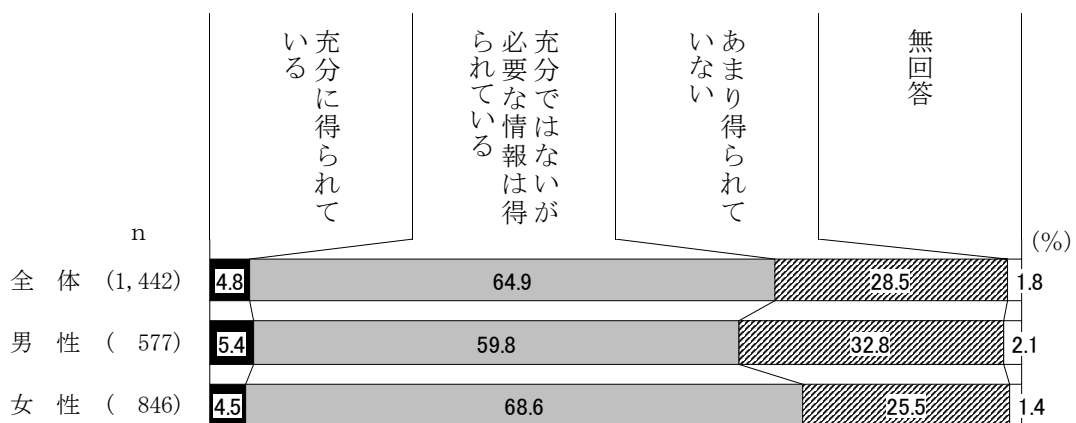
問9 あなたは現在、武蔵野市の情報を十分に得られていると思いますか。(○は1つ)

図表2-13 市の情報の入手状況



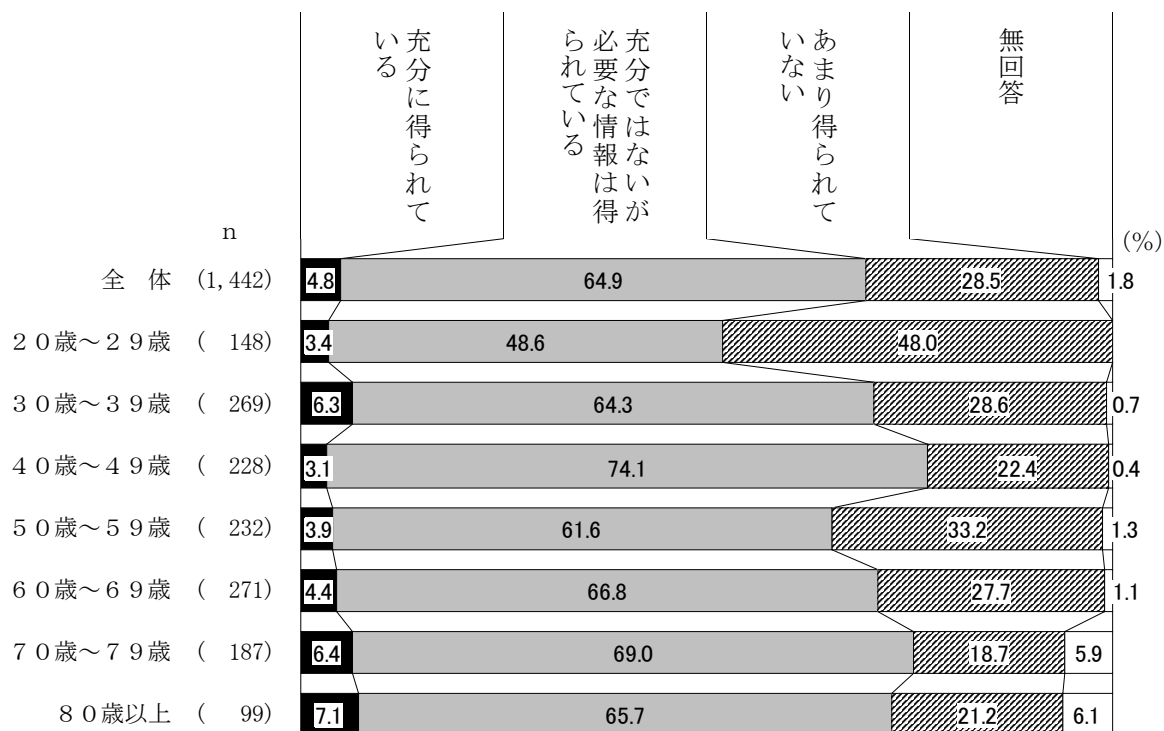
市の情報の入手状況としては、「充分ではないが必要な情報は得られている」(64.9%)が6割台半ば近くで最も多い。次いで、「あまり得られていない」(28.5%)が3割近くとなっている。(図表2-13)

図表2-14 市の情報の入手状況 (性別)



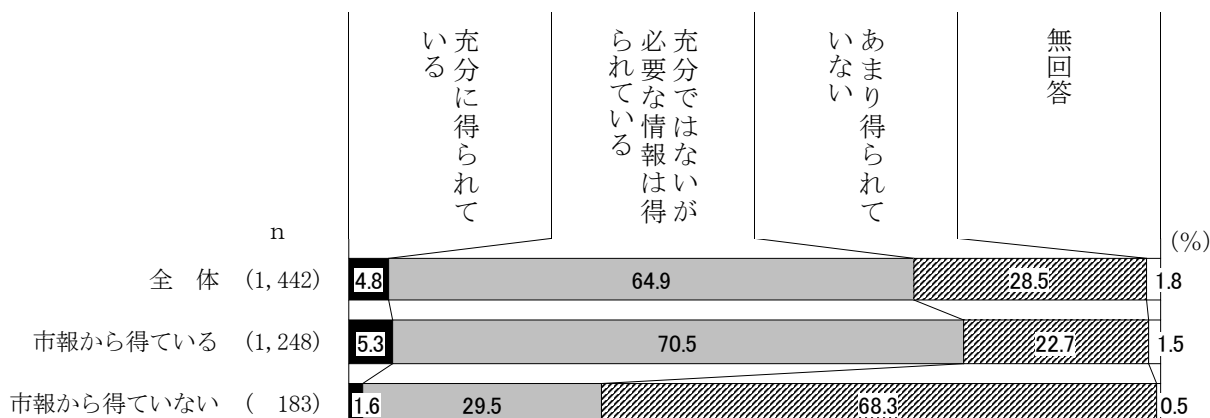
性別で見ると、「充分ではないが必要な情報は得られている」では、女性の方が男性よりも8.8ポイント多くなっている。一方、「あまり得られていない」では、男性の方が女性よりも7.3ポイント多くなっている。(図表2-14)

図表 2-15 市の情報の入手状況 (年代別)



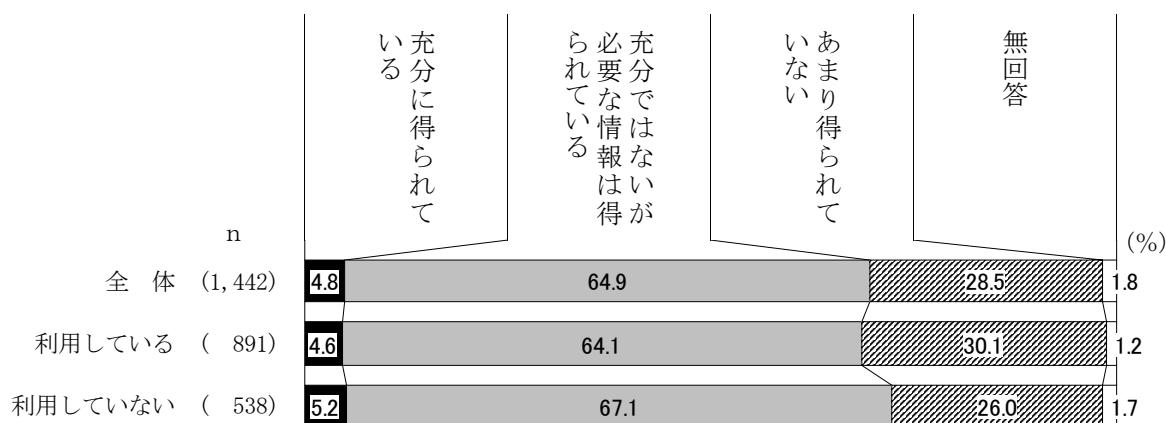
年代別で見ると、「充分ではないが必要な情報は得られている」では、40歳～49歳で7割台半ば近く、70歳～79歳で7割弱となっている。「あまり得られていない」では、20歳～29歳で5割近くと最も多い。(図表 2-15)

図表 2-16 市の情報の入手状況 (市報からの市政情報入手別)



市報からの市政情報入手別で見ると、「充分ではないが必要な情報は得られている」では、市報から得ている人で約7割となっているのに対して、市報から得ていない人で3割弱と大きく差が出ている。また、「あまり得られていない」では、市報から得ていない人で7割近くと多い。市報の活用状況により、市の情報の入手状況も大きく異なり、施策事業の認知状況にも影響することが考えられる。市報の閲覧・活用促進とともに市報以外での情報提供も工夫していく必要がある。(図表 2-16)

図表 2-17 市の情報の入手状況 (インターネットの利用状況別)



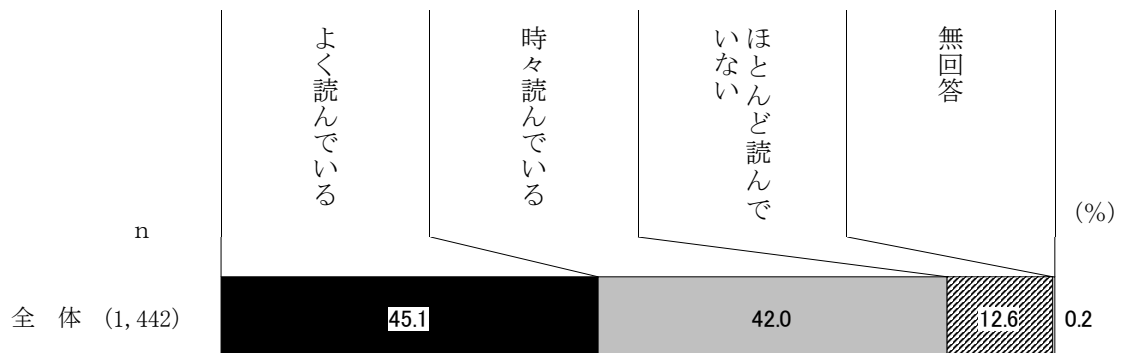
インターネットの利用状況別で見ると、「あまり得られていない」では、利用している人の方が利用していない人よりも多いが、特に大きな違いは見られない。(図表 2-17)

2-5 市報の閲読状況

◎ 「よく読んでいる」が4割台半ば、「時々読んでいる」が4割強

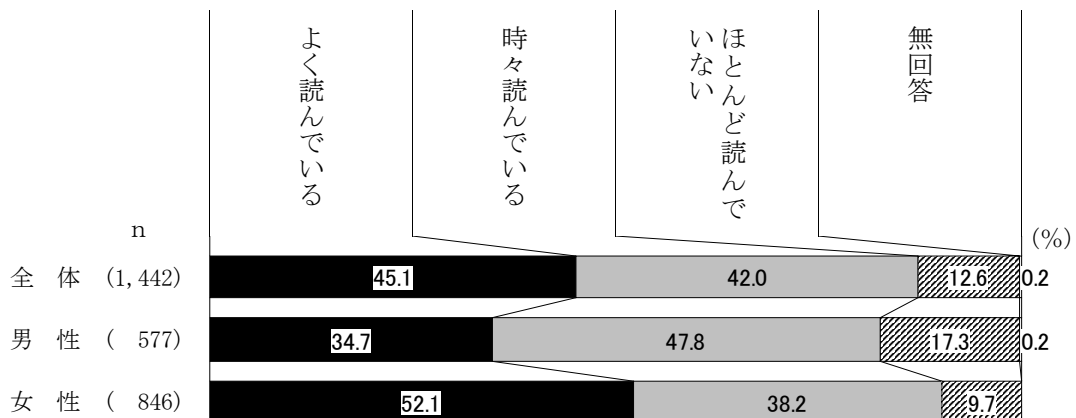
問10 あなたは現在、市報をどの程度読んでいますか。(○は1つ)

図表2-18 市報の閲読状況



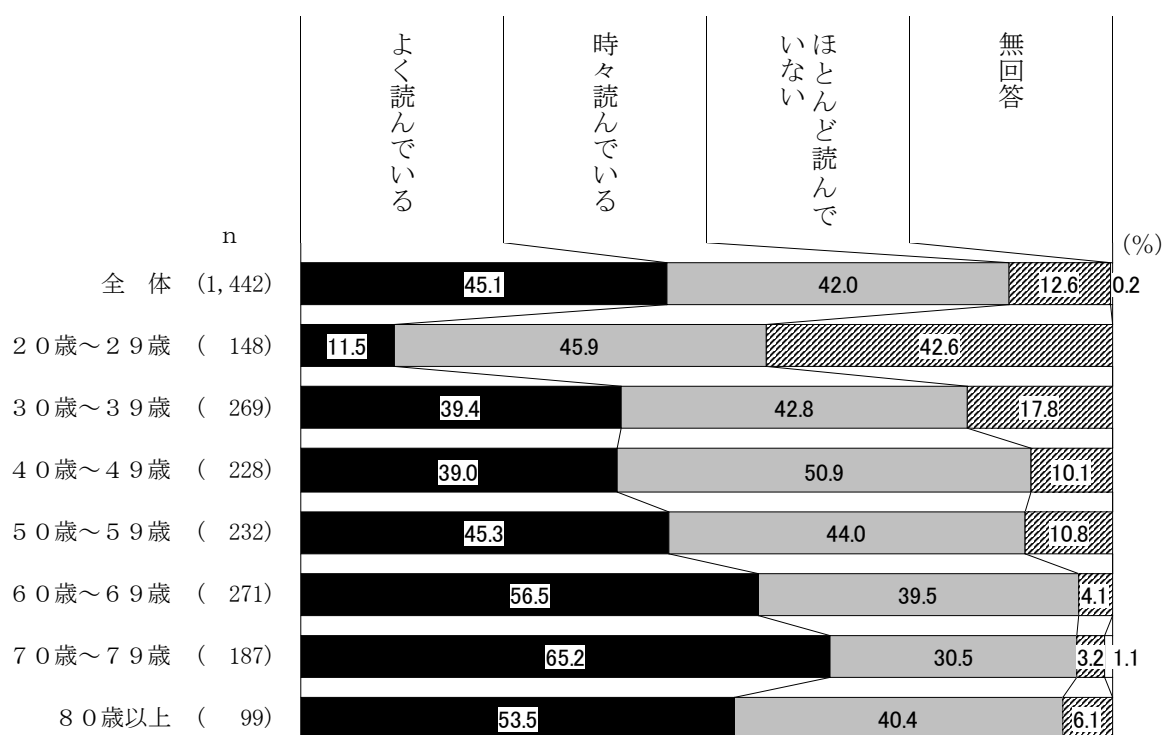
市報の閲読状況としては、「よく読んでいる」(45.1%)が4割台半ば、「時々読んでいる」(42.0%)が4割強で拮抗している。「ほとんど読んでいない」(12.6%)は1割強である。(図表2-18)

図表2-19 市報の閲読状況 (性別)



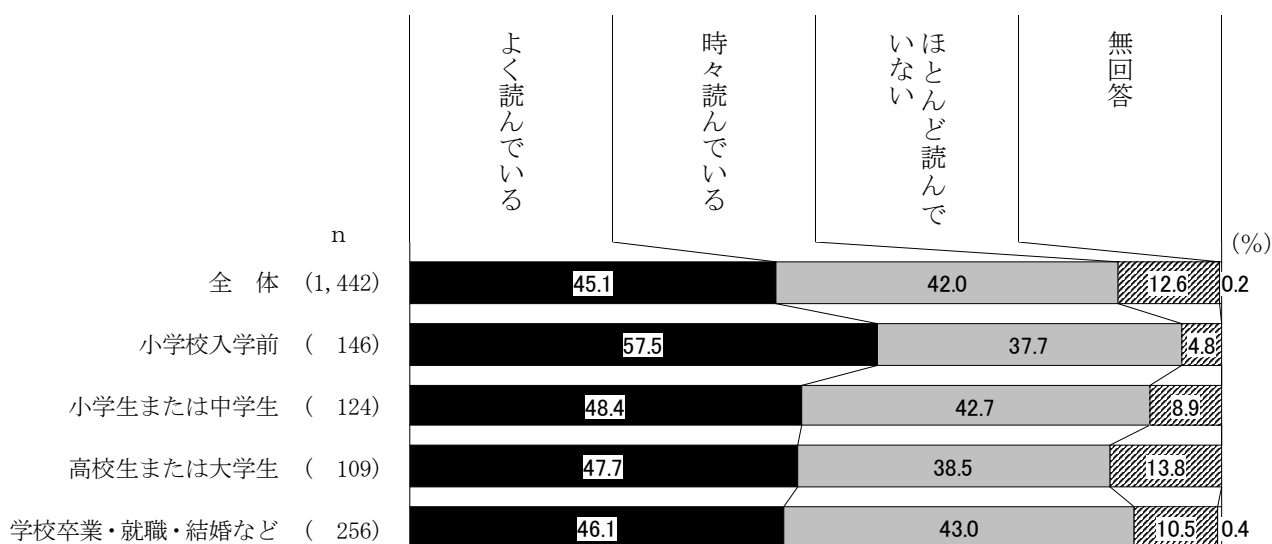
性別で見ると、「よく読んでいる」と「時々読んでいる」をあわせた「読んでいる」では、女性の方が男性よりも7.8ポイント多い。また、「よく読んでいる」では、女性の方が男性よりも17.4ポイント多くなっている。逆に、「ほとんど読んでいない」では男性の方が女性よりも7.6ポイント多い。(図表2-19)

図表 2-20 市報の閲読状況 (年代別)



年代別で見ると、「読んでいる」では、60歳以上の各年代で9割を超えており、特に「よく読んでいる」は70歳～79歳で6割台半ばとなっている。「ほとんど読んでいない」では、20歳～29歳で4割強と突出して多く、年代によって市報の閲読状況は大きく異なることが分かる。(図表 2-20)

図表 2-21 市報の閲読状況 (一番下のお子さんの状況別)



一番下のお子さんの状況別で見ると、「読んでいる」では、小学校入学前で9割台半ば、小学生または中学で9割強となっている。特に「よく読んでいる」では、小学校入学前で5割台半ばを超えて最も多く、育児・子育ての初期段階の層の閲読が多い。「ほとんど読んでいない」では、高校生または大学生で1割台半ば近くとなっている。(図表 2-21)

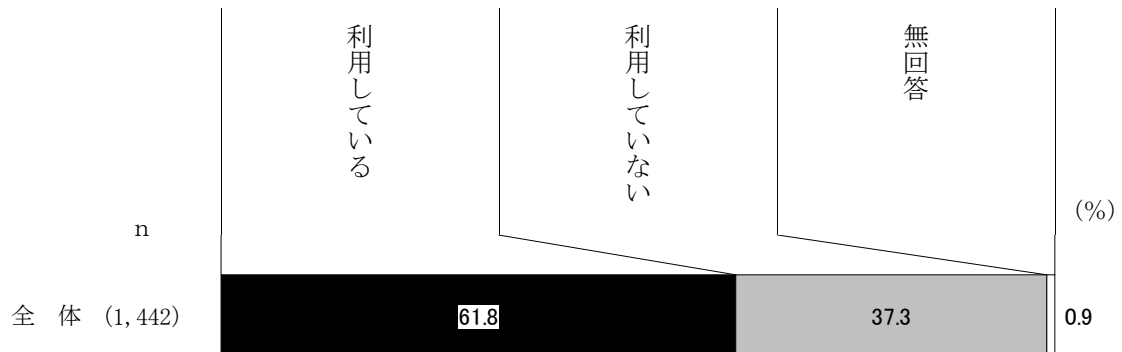
2-6 インターネットの利用状況

◎ 「利用している」が6割強、「利用していない」が3割台半ばを超える

問11 あなたは現在、家庭や職場、学校などでインターネットを利用していますか。

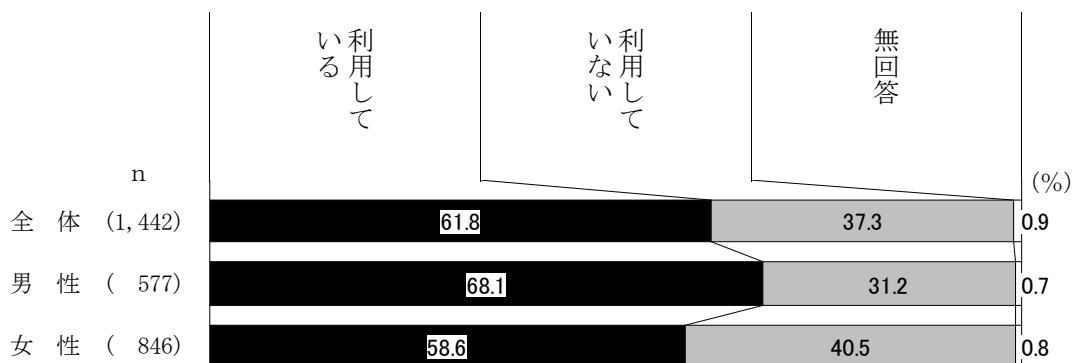
(○は1つ)

図表2-22 インターネットの利用状況



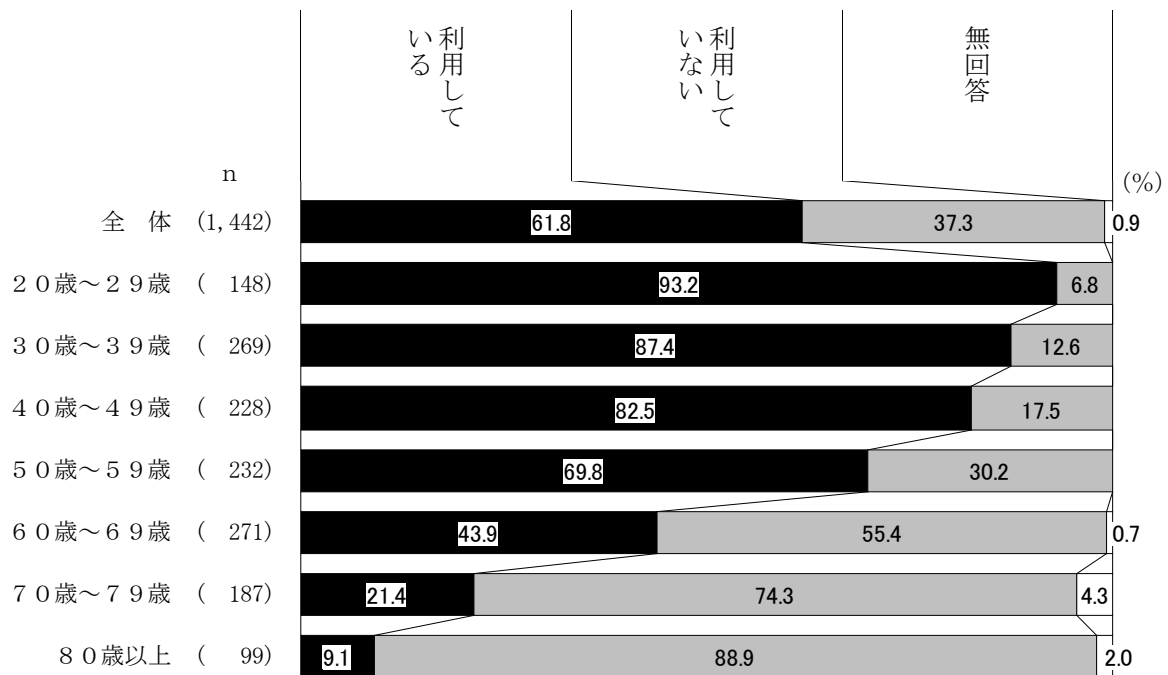
インターネットの利用状況としては、「利用している」(61.8%)が6割強である。一方、「利用していない」(37.3%)が3割台半ばを超えている。(図表2-22)

図表2-23 インターネットの利用状況 (性別)



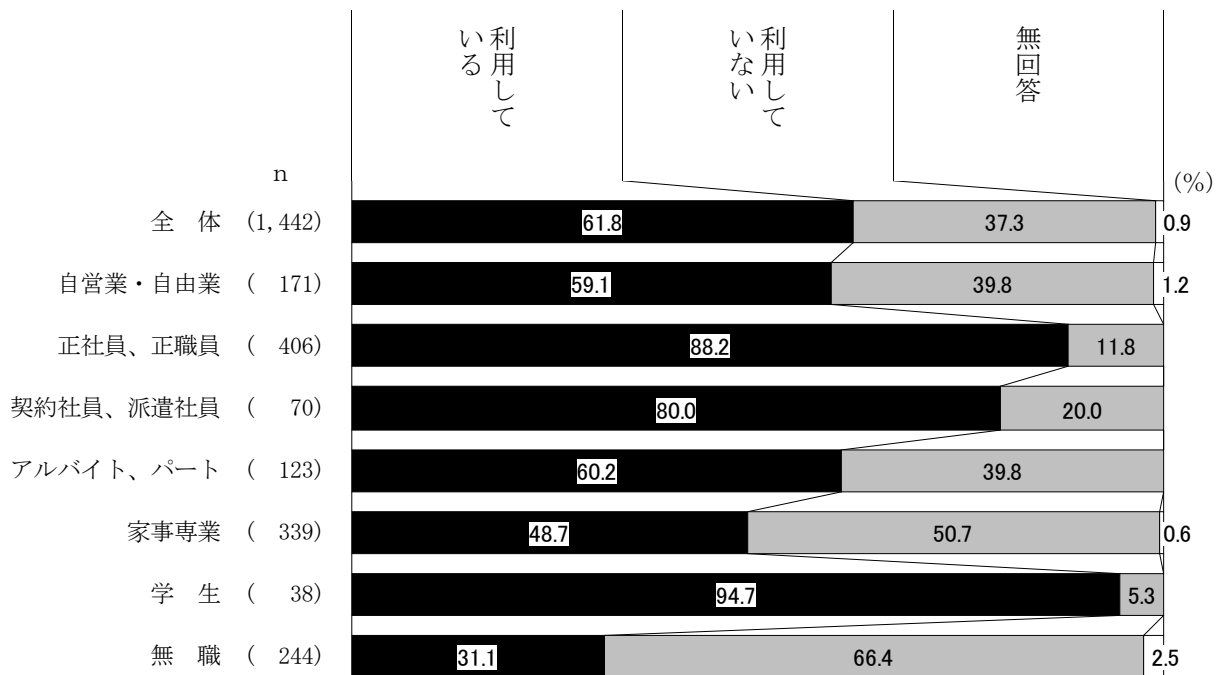
性別で見ると、「利用している」では、男性の方が女性よりも9.5ポイント多い。(図表2-23)

図表 2-24 インターネットの利用状況 (年代別)



年代別で見ると、「利用している」では、20歳～29歳で9割台半ば近くと多いが、年代が上がるほど減少しており、50歳～59歳で7割弱、60歳～69歳で4割強、70歳～79歳で2割超となっている。(図表 2-24)

図表 2-25 インターネットの利用状況 (職業別)



職業別で見ると、「利用している」では、学生で9割台半ば近くと最も多い。次いで、正社員、正職員で9割近く、契約社員、派遣社員で8割となっている。一方、「利用していない」は無職で6割台半ばを超える。次いで、家事専業で約5割となっている。(図表 2-25)

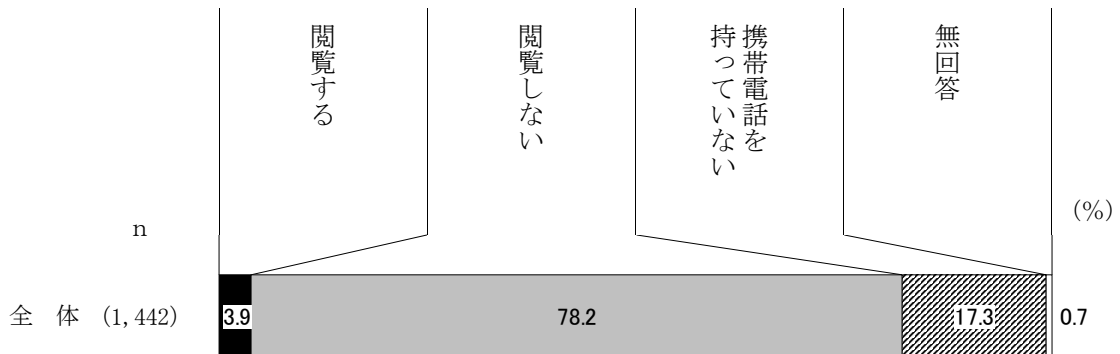
2-7 携帯電話による市のインターネット情報の閲覧状況

◎ 「閲覧しない」が8割近くで多数を占める

問12 あなたは携帯電話で市のインターネット情報を閲覧することがありますか。

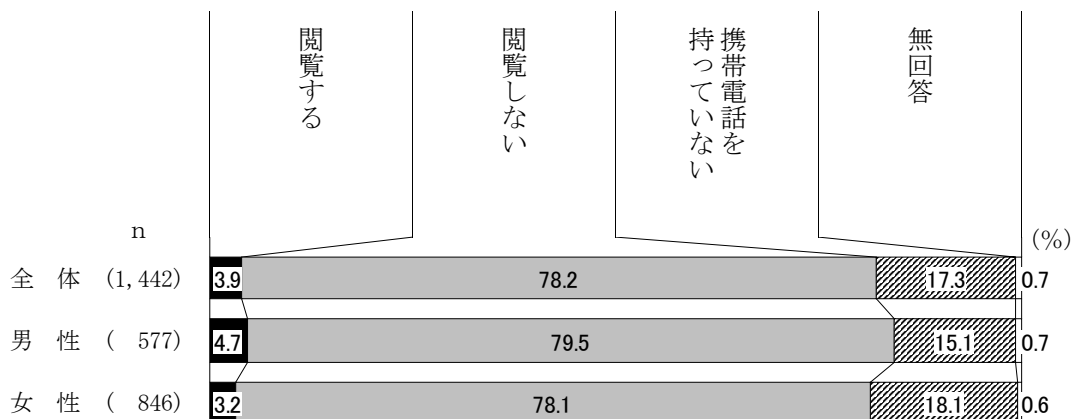
(○は1つ)

図表2-26 携帯電話による市のインターネット情報の閲覧状況



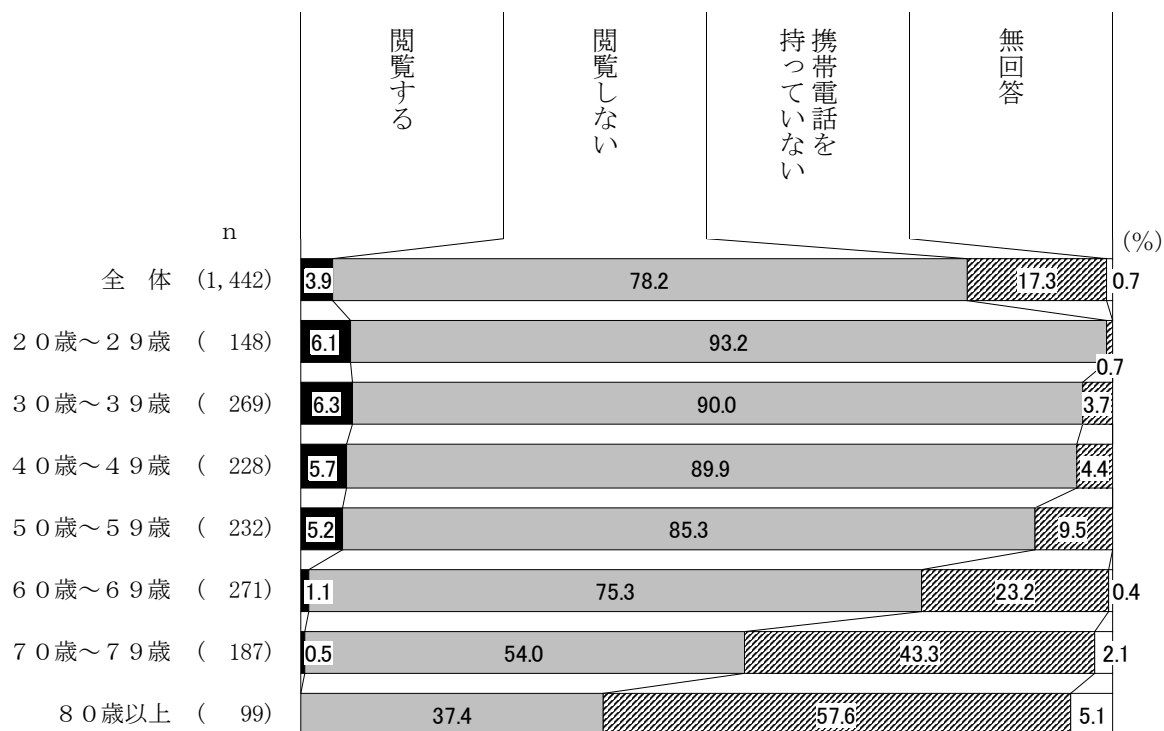
携帯電話による市のインターネット情報の閲覧状況としては、「閲覧しない」(78.2%)が8割近くで多数を占めている。市では、平成19年4月より携帯電話版ホームページを開設したが、今後は利用促進の取り組みが必要である。(図表2-26)

図表2-27 携帯電話による市のインターネット情報の閲覧状況 (性別)



性別で見ると、特に大きな違いは見られない。(図表2-27)

図表 2-28 携帯電話による市のインターネット情報の閲覧状況 (年代別)



年代別で見ると、「閲覧する」では、20歳～59歳の各年代で5%を超えている。「携帯電話を持っていない」は年代が上がるほど増加し、70歳～79歳で4割台半ば近く、80歳以上で5割台半ばを超えている。(図表 2-28)